

# 南アフリカ共和国

Republic of South Africa

	2013年	2014年	2015年
①人口：5,496万人（2015年央）			
②面積：121万9,090km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：5,695米ドル （2015年推計）			
④実質GDP成長率（%）	2.3	1.6	1.3
⑤消費者物価上昇率（%）	5.7	6.1	4.6
⑥失業率（%）	24.1	24.3	24.5
⑦貿易収支（100万ランド）	△68,341	△68,638	△34,454
⑧経常収支（100万ランド）	△203,774	△206,644	△174,340
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	44,864	44,267	41,620
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	136,516	145,082	134,463
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ランド、期中平均）	9.66	10.85	12.76

〔注〕⑥：第4四半期、⑦：国際収支ベース（財・サービス）、⑩：2015年は9月末時点  
〔出所〕①④～⑥：南アフリカ共和国統計局、②：南アフリカ共和国政府、③⑨⑪：IMF、⑦⑧⑩：南アフリカ共和国準備銀行

2015年の南アフリカ共和国（以下、南ア）の実質GDP成長率は、世界経済の成長鈍化および国内の干ばつ被害により1.3%と低調で、リーマン・ショック直後の2009年（マイナス1.5%）以来最低となった。貿易は、通貨ランド安による価格競争力の強化を背景にした自動車輸出の伸びと、原油の輸入減少を理由に貿易収支・経常収支ともに前年より改善したが、依然として赤字のまま。対日貿易は、2014年の鉱山ストライキの影響で不振だった鉱業部門が2015年には回復し、プラチナを中心とする貴石・貴金属などの輸出が大幅に増えた。

## 成長率は1.3%と過去6年間で最低に

2015年の実質GDP成長率は1.3%で、前年の1.6%を下回り、過去6年間で最低となった。民間最終消費支出は、可処分所得の増加や為替下落による物価上昇を見越した先行支出により、前年を上回る伸びを示した。国内総固定資本形成は、輸送や通信分野を中心に伸びがみられ前年比2.5%増となった。財貨・サービスの輸出は4.1%伸びたが、同輸入がそれを上回って増加したため純輸出ではマイナスとなり、経済成長率を押し下げた。

産業別では、過去20年間で最悪といわれる大規模な干ばつにより農業が前年比5.9%減となったことが、最大の押し下げ要因となった。また、製造業も世界的な需要低迷により自動車以外の輸出が伸び悩み、0.3%減となった。一方、2014年に労働争議が広がりマイナス成長と

なった鉱業は、プラチナ鉱山の操業が平常化し、生産効率が回復したため3.2%増と持ち直した。

南ア準備銀行の6月の発表によると、2016年第1四半期のGDP成長率は、鉱業（前期比18.1%減）が鉄鉱石やプラチナの生産減を背景に大幅に低下したことから、マイナス1.2%とマイナス成長に転じた。IMFは2016年7月、同年のGDP成長率について、輸出の減少や政治不安を理由に、前年を下回る0.4%と予測している。

消費者物価指数上昇率は2015年通年で4.6%と、準備銀行の目標圏内（3～6%）に収まったが、2016年1月からは、通貨ランドの下落や干ばつによる農業不振で食料品の輸入が増加していることなどから物価が上昇し、5カ月連続で6～7%台となった。準備銀行は、2015年7月から2016年3月にかけて4回にわたり政策金利の引き上げを実施し（5.75%から7%）、インフレ上昇圧力を抑制するための金融引き締め政策をとっている。また、2015年秋以降に本格化した国際的な資源価格の低迷により、プラチナ、鉄鉱石などの資源輸出国である南アにおいてもランド売り圧力が高まり、2015年の為替レートは期中平均比で約2割安くなった。

表1 南アフリカ共和国の需要項目別実質GDP成長率

（単位：%）

	2014年	2015年				2016年 Q1	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	1.6	1.3	2.0	△2.0	0.3	0.4	△1.2
民間最終消費支出	0.7	1.7	2.0	0.3	2.4	2.1	△1.3
政府最終消費支出	1.8	0.2	△1.7	1.6	0.8	2.6	1.0
国内総固定資本形成	1.5	2.5	2.6	△0.9	4.6	△2.8	△6.0
財貨・サービスの輸出	3.3	4.1	△1.3	12.2	△3.9	0.2	△7.1
財貨・サービスの輸入	△0.5	5.3	23.4	△10.6	1.0	5.0	△7.1

〔注〕四半期の伸び率は前期比。

〔出所〕南ア準備銀行

## 自動車を中心に輸出が増加

南ア歳入庁によると、2015年の貿易（通関

ベース、暫定値)は、輸出が前年比5.2%増の1兆388億ランド、輸入は0.5%増の1兆879億ランドとなり、ともにランド建てでは過去3年間で最高を記録した。貿易収支は491億ランドの赤字となったが、輸出の伸びが輸入のそれを上回り、赤字幅は減少した。

輸出を品目別にみると、最大品目の鉱物性生産品(構成比21.0%)は世界的な需要低迷により前年比7.9%減少したが、プラチナや金といった貴石・貴金属など(17.9%)はストライキで停止していた生産が再開されたことや電力供給の改善で17.9%増となった。自動車をはじめとする輸送機器(12.7%)はランド安により価格競争力が強化されたことが追い風となり25.1%増と好調だった。特に欧州向けが増加し、乗用車の輸出ではドイツ向けが2.6倍、ベルギー向けが85.7%増、英国向けが3.2倍となった。南ア自動車製造者協会(NAAMSA)によると、2015年の国内の自動車生産台数は輸出需要の高まりを背景に、前年比8.7%増の61万5,658台と初めて60万台を突破した。うち、半数以上の33万1,123台を輸出しており、輸出台数は21.0%増に上った。

国・地域別輸出では、首位の中国が輸出額942億4,300万ランドとなり、前年比0.6%の微増にとどまった。ドイ

ツや米国向け輸出が大幅に増加したため、構成比は前年の9.5%から9.1%に低下した。輸出の3割強を占める鉄鉱石が金額ベースで19.8%減と大幅に減少したものの、フェロアロイ(36.7%増)、クロム(38.1%増)といった他の鉱物の輸出増により相殺された。

2位の米国は前年比12.8%増だった。プラチナ(38.4%増)、乗用車(17.2%増)のほか、フィルター機器(39.9%増)の輸出が拡大した。前年3位の日本は1.9%減となり、ナミビア、ボツワナといった周辺国への一般機械や電力の輸出が増加する中、6位に順位を落とした。前年鉄鉱石の輸出が急増したインド向け輸出は、化学木材パルプ(2.9倍)が好調だったものの、鉄鉱石(17.2%減)、マンガ(57.4%減)がともに大きく減少し、全体では0.3%減となった。

### ■原油輸入の減少で産油国からの輸入が顕著に減少

輸入を品目別にみると、鉱物性生産品(構成比16.1%)のうち、原油は金額で前年比44.4%減、数量で8.3%減だった。前年は電力供給問題に対処するため電力公社エスコムが発電用にディーゼル燃料を購入していたことから、原油・ディーゼル燃料が輸入総額の22.0%を占めていたが、油価の低下が続いていることもあり、2015年は14.4%まで低下した。なお、2015年8月にメデュピ石炭火力発電所の初号機(800メガワット)が稼働を開始して以降は、国内の電力事情は前年より一定程度改善がみられている。

国・地域別輸入では、9年連続で中国が首位となり、前年比18.9%増と大幅に拡大した。携帯電話などの電話機(35.4%増)や鉄道用機関車(5.9倍)、テレビ部品(46.7%増)など幅広い品目で輸入が増えた。2位のドイツも自動車部品(金額で12.0%増、数量で22.7%増)や乗用車・トラック(金額・数量ともに6.5%増)が増加し、2桁増の13.2%増となった。3位の米国(7.1%

表2 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2014年		2015年 (暫定値)		2014年		2015年 (暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	106,044	112,341	10.8	5.9	70,240	78,495	7.2	11.8
鉱物性生産品	236,904	218,081	21.0	△7.9	257,033	174,834	16.1	△32.0
化学品	63,496	67,115	6.5	5.7	124,355	137,743	12.7	10.8
貴石・貴金属など	157,389	185,550	17.9	17.9	11,185	7,821	0.7	△30.1
卑金属および同製品	128,429	125,538	12.1	△2.3	49,978	60,201	5.5	20.5
一般機械・電気機械	99,312	110,662	10.7	11.4	249,459	272,489	25.0	9.2
輸送機器	105,335	131,798	12.7	25.1	103,174	114,094	10.5	10.6
合計 (その他含む)	987,484	1,038,787	100.0	5.2	1,082,665	1,087,924	100.0	0.5

(出所) 南ア歳入庁

表3 南アフリカ共和国の主要国・地域別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2014年		2015年 (暫定値)			2014年		2015年 (暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	93,657	94,243	9.1	0.6	中国	167,607	199,358	18.3	18.9
米国	69,873	78,792	7.6	12.8	ドイツ	108,623	122,965	11.3	13.2
ドイツ	49,591	68,221	6.6	37.6	米国	71,398	76,483	7.0	7.1
ナミビア	49,344	52,893	5.1	7.2	インド	49,378	53,756	4.9	8.9
ボツワナ	51,829	52,686	5.1	1.7	日本	41,165	40,137	3.7	△2.5
日本	52,166	51,164	4.9	△1.9	ナイジェリア	55,704	37,848	3.5	△32.1
英国	37,566	42,891	4.1	14.2	英国	35,437	35,009	3.2	△1.2
インド	42,059	41,921	4.0	△0.3	サウジアラビア	77,326	33,693	3.1	△56.4
モザンビーク	32,705	29,966	2.9	△8.4	イタリア	28,649	28,301	2.6	△1.2
ザンビア	29,643	29,538	2.8	△0.4	タイ	25,784	26,291	2.4	2.0
ベルギー	26,815	29,536	2.8	10.1	フランス	23,905	24,491	2.3	2.5
合計 (その他含む)	987,484	1,038,787	100.0	5.2	合計 (その他含む)	1,082,665	1,087,924	100.0	0.5

(出所) 南ア歳入庁

表4 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資額  
 <国際収支ベース、ネット、フロー・残高>  
 (単位：100万ランド)

	2013年	2014年	2015年	2014年末残高
対内直接投資額	80,138	62,627	22,614	1,608,652
対外直接投資額	64,196	83,234	68,246	1,691,089

[出所] 南ア準備銀行「Quarterly Bulletin (四季報)」2016年3月号

増)からは一般機械(2.2%増)、前年6位のインドは医薬品(62.6%増)の輸入が増え、4位(8.9%増)に順位を上げた。原油輸入の減少により、サウジアラビア、ナイジェリアといった産油国からの輸入額がそれぞれ56.4%減、32.1%減となり、前年3位のサウジアラビアは8位、4位のナイジェリアは6位に順位を下げた。サブサハラ・アフリカ(構成比10.5%)からの輸入は、全体で18.9減だった。ナイジェリアのほか、アンゴラ(21.9%減)やガーナ(97.4%減)といった産油国からの輸入額が大きく減少したことが要因だ。

### ■直接投資は対内外ともに大幅減

南ア準備銀行によると、2015年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比63.9%減の226億1,400万ランドだった。南アからの対外直接投資は、18.0%減の682億4,600万ランドだった。

対内直接投資の減少理由について南ア準備銀行は、国際資源価格の低下を受けた資源開発の減少、中国経済の減速による資源需要の縮小、国債の格下げなどを挙げている。民間経済アナリストの中には、ズマ大統領による反対派の粛清や公金流用の発覚などの不透明な政治運営が外国投資家の不安を増大させているとの見方も根強い。

なお、2015年の外国企業による南ア向けの大型投資案件では、ベルギーの酒類メーカー、アンハイザー・ブツ

シュ・インベブによるSABミラーの買収発表(1,060億ドル、2015年11月)があった。

### ■対日貿易額は輸出、輸入ともに減少

南ア歳入庁によると、2015年の対日輸出は前年比1.9%減の511億6,400万ランド、対日輸入額は2.5%減の401億3,700万ランドだった。前年増加した輸入額が再度減少に転じたことに加え、相対的に輸出の減少幅が小さかったため、対日貿易黒字は前年比で2,600万ランド増加した。

南アの日本への輸出を品目別で見ると、全体の44.2%を占める貴石・貴金属などがプラチナ鉱山の生産再開などにより14.0%増となった。一方、鉄鉱(30.7%減)、アルミニウムおよび同製品(16.5%減)、マンガン鉱(15.7%減)などは減少した。また、動植物生産品・食料品類はかんきつ類(特にグレープフルーツ)や種子は増加したが、魚介類や他の野菜・フルーツは減少し、全体では28.0%減となった。

南アの日本からの輸入を品目別にみると、一般機械(構成比23.8%)が前年比16.4%増となったほか、鉄鋼・同製品(27.1%増)の中でも熱間圧延フラットロール製品が30.8%増と大幅に増加した。

日本の財務省統計によると、2015年の南アへの対外直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は1,289億円だった。そのうち一般機械器具(651億円)などを含む製造業は839億円、通信業(343億円)などを含む非製造業は451億円だった。近年の主な動きでは、三井住友海上火災保険による事務所開設(2015年7月発表)、野村ホールディングスによる支店新設(2016年3月発表)、住友ゴム工業によるトラック・バス用タイヤの生産設備新設(約66億円、2016年3月発表)などがみられた。

表5 南アフリカ共和国の対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ランド、%)

	輸出(FOB)					輸入(FOB)			
	2014年		2015年(暫定値)			2014年		2015年(暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	2,417	1,740	3.4	△28.0	化学品	1,484	1,533	3.8	3.3
鉄石、スラグおよび灰	10,479	7,429	14.5	△29.1	鉄鋼・同製品	1,080	1,373	3.4	27.1
鉄鉱	7,806	5,413	10.6	△30.7	一般機械	8,199	9,540	23.8	16.4
マンガン鉱	1,482	1,250	2.4	△15.7	印刷機	2,058	2,239	5.6	8.8
木材、チップ	1,524	2,020	3.9	32.5	ブルドーザー、地ならし機など	1,723	1,612	4.0	△6.4
貴石・貴金属など	19,808	22,589	44.2	14.0	電気機器	1,734	1,979	4.9	14.1
鉄鋼および同製品	4,524	4,455	8.7	△1.5	輸送機器	9,281	9,229	23.0	△0.6
フェロクロム(炭素含有量4%超)	4,215	3,650	7.1	△13.4	乗用車	4,883	5,183	12.9	6.1
アルミニウムおよび同製品	3,580	2,988	5.8	△16.5	貨物自動車	1,754	1,537	3.8	△12.4
輸送機器	6,365	7,039	13.8	10.6					
合計(その他含む)	52,166	51,164	100.0	△1.9	合計(その他含む)	41,165	40,137	100.0	△2.5

[出所] 南ア歳入庁